

# 第2回西脇市総合教育会議 議事録

平成29年11月29日

西脇市教育委員会

## 西脇市総合教育会議議事録

### 1 開催日時

平成29年11月29日（水）午後1時15分～午後2時25分

### 2 開催場所

西脇市生涯学習まちづくりセンター 会議室1

### 3 出席者

#### (1) 市長及び教育委員会

市長	片山象三	教育長	笹倉邦好
教育委員	藤原久和	教育委員	内橋和彦
教育委員	岩本理香	教育委員	依藤三枝子

#### (2) 事務局

都市経営部長	筒井研策
教育部長	森脇達也
教育総務課長	清瀬泰弘
学校給食センター所長	大隅誠一
学校教育課長	竹内誠
学校教育課主幹兼教育研究室長	松本亨
幼保連携課長	鈴木成幸
生涯学習課長	山本昇司
スポーツ振興室長	西村寿之
人権教育室長	柳川瀬輝彦
青少年センター所長	永井寿幸
図書館長	楠本昌信

### 4 傍聴者

なし

### 5 会議の概要

#### (1) 市長あいさつ

#### (2) 協議・調整事項

ア 平成30年度教育委員会主要施策の概要について

イ 学校における指導について

#### (3) その他

## 西脇市総合教育会議 議事録（平成29年11月29日）

### ○事務局

本日は大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、ただ今から、平成29年度第2回西脇市総合教育会議を開会いたします。

それでは、開会に当たりまして市長から御挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。

### ◎市長

総合教育会議の開会に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。平素は、教育委員の皆様には、本市教育行政の推進に特別の御支援をいただき心から感謝いたしております。私ごとですが、10月の選挙において無投票で当選しまして、2期目ということになります。どうぞよろしくお願いいたします。

7月に開催をさせていただいた第1回の会議でも、いろんな貴重な意見をいただきました。本日が2回目の総合教育会議で、「来年度の教育委員会の主要施策の概要」と「学校における指導」の2点について進めさせていただきます。平たく言えば、どれぐらい予算がかかるのかということも含め、優先順位について忌憚のない意見をいただきたい。また、学校における指導という部分でも、こういう形で頑張っていくますという非常に大事なことでありますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### ○事務局

ありがとうございました。

このあと議事に移らせていただきますが、会議の議長につきましては、「西脇市総合教育会議運営要綱」に基づきまして、市長にお願いしたいと思います。市長よろしくお願いいたします。

### ◎市長

それでは、まず、会議録署名委員につきまして、私から指名をさせていただきます。岩本委員、内橋委員、よろしくお願いいたします。会議録の署名をもって「運営要綱」第5項第2号の会議録の承認とみなしますのでよろしくお願いいたします。

### ◎市長

引き続き、次第2の協議・調整事項(1)、「平成30年度教育委員会主要施策の概要について」を事務局から説明させていただきます。

各所属長から簡潔、明瞭に説明をお願いします。

————— [ 説 明…記述省略 ] —————

### ○事務局

各所属の事業を説明させていただいたのですが、あくまでこれは教育委員会内で調整したものです。今後、市長査定等がありますので、これの全てが来年度できるということではなく、来年度に向けた取組ということで御理解をお願いします。

◎市長

ありがとうございます。今、市長査定とありましたが、結果として私が悪者になって予算を付けることになります。教育の分野にも本当に力を入れていきたいのですが、徐々に比率は上がってきていると思いますが、優先順位があります。今日説明させていただいた中で、これは本当に大事な事業であるとか、ここはこういう風に考えているのかというようなことを委員の皆様から御意見としていただければと思っています。

○委員

学校教育課で少し気になったのですが、支援者はすごく増えてきたということで、支援員の増加はとても大切なことだと思います。学校教育課長から支援員の増加はなくてはならないと考えているとのことなので、それについてはそれでいいかと思います。もう一点は、学力向上からいうと、やはり不登校生の学力の定着にもう少し目を向けていただきたい。聞くところによると福井県では、それ専門に人員を配置しているようなことを聞いたことがあるので、そういう対策を今後考えていただければと思います。

◎市長

それについてはどうですか。福井県というキーワードが出ましたが。

○事務局

不登校生の学力向上のスタッフについてですか。

○委員

不登校生に限らず、不登校気味の児童生徒を含めてです。

○事務局

おっしゃるとおり、不登校生・児童についても学力向上を図るべきだとももちろん考えております。そのお子様によって学習の進み具合が当然異なると思いますので、そこを丁寧に指導できる方を考えていきたいと思っています。青少年センターとの連携や学校との連携もありますので、今、具体的にできますという案は御提案できませんが、十分に対応していきます。

◎市長

今回は福井県の先生に来てもらって研修をしましたが、少し内容を報告してください。

○事務局

今年度は、8月中旬に福井県の教育研究所の三谷先生にお越しいただき、中堅円熟研修を行いました。そこでは具体的に不登校生に対してということではなかったのですが、おっしゃっていたのは、個に応じてしっかり対応していくことが大事だということです。具体的には全国学力・学習状況調査でいうと、答案用紙をしっかり見て、そのお子さんがどこでつまづいているかをよく確認して対応していくということでした。今年度は、全校で答案用紙を持ち帰っていただき、それをもとに2学期以降取り組んでいただいております。それと、今年度初めてになるんですが、小中学校の先生方と合同で福井県に視察に行きました。小学校は岡本小学校、中学校は松陵中学校へ行き、取組を学んできましたので、それも生かしながらということ考えています。

○委員

不登校ですので、学校に来れば何とかできるという話ですが、そのままほったらかしにもできないと思います。ですから小学校なら小学校、中学校なら中学校の、言葉は悪いですが最低これだけの学力は絶対につけてあげないといけないと思います。それは何のためにかというと、将来社会に出た時に、子どもたちが困らないようにするためにです。対策や対応をしていただければと思います。先ほどの福井県の話ですが、こういう例があるよと岡本前校長先生から聞きましたので、確認した次第です。

◎市長

事務局から何かありませんか。

○事務局

不登校といいましても、本当に全欠の生徒もおりますし、学校に来てはいますが、別室で学習している生徒もいます。私どものところは適応指導教室に来た生徒についての指導はしているのですが、その辺の個別の計画は教育研究室中心に必要だと思えます。あと、青少年センターはクラウド環境が整っておらず、その辺も含めておっしゃったようにもう一度見直したいと思えます。

○委員

学校訪問に行った時に、芳田小学校などの校舎で雨漏りがしていて、だいぶ傷んできているところがいろいろとあると思うのですが、そういうところの修理をお願いしたいと思えます。

◎市長

芳田小学校は雨漏りしているのですか。

○事務局

一部ですが、階段室のところでまだ雨漏りがしています。原因がはっきりしないところがあり、少し様子を見たりして、原因を突き止めようとしているのですが、かなり高額なお金がかかるとということが判明してきているところです。もう少し対策を中心にやっていきたいと思っています。今回、整備事業で挙げさせていただいている中には、一応含もうと考えています。

○委員

私も学校訪問に行き、学校の修繕が必要なところが何か所かあったのが気になりました。ICTの教育推進事業において、学校訪問の時も先生方がICTの機械を使用されて、児童生徒にとっても視覚化されてわかりやすい授業をされていました。これから先、英語もそうですが、プログラミングということもまた授業が増えてくると、そういうことも必要になってくるのではないかと思います。プログラミングになっていきなり揃えることは大変なので、少しずつ揃えていただければいいのではないかと思います。

○事務局

最初の御質問の修繕箇所につきましては、学校からの修繕要望も出てきています。今年度予算もかなり使ってきている段階で、修繕箇所がかなり積み重なっていますので、今後、優先順位を決めて対応していきたいと思えます。

◎市長

プログラミングについてはどうですか。

## ○事務局

プログラミングにつきましては、おっしゃるとおり今後重要なことになってきます。先日、大阪でITソリューションという研修の中で、そのお話も聞いてきました。ポイントは論理的な思考力を身に着けるといことがプログラミングの一番の目的であると国から説明がありました。もちろんICTはタブレットやパソコンを使うことも大事ですが、論理的な思考力を身に着けるといことですので、各教科において、思い付きや行き当たりばったりではなく、今やっていることをしっかり論理立てて指導していく。また、それを子どもたちにも身に着けさせて、しっかり発表させたり、表現力を身に着けたりということでしたので、それで学校にも指導していきたいと思っています。指導要領につきましては、中学校の方に技術科で今それが改善されていますのと、今後、小学校につきましては、プログラミングの教育の指針というものを作るように指導するという説明がありましたので、今月の校長会でもその資料を配布して、各学校に指示する予定にしています。

## ○委員

3ページ2番で、今年度から認定こども園が始まり、認定こども園の1期生が小学校へ進むという形になるのですが、従来から幼稚園に行かずに保育園から小学校へ行かれる子どもさんもおられたんですけど、今回、認定こども園になったことによって、質の高い教育と保育を提供するというので、小学校と今以上の連携が必要だと思います。

やはり認定こども園ということになると、行政がどこまで立ち入っていけるかという部分を解消していけるかということがあります。よくいろんな文章に書いてあるニーズの多様化というのがありますが、ニーズの多様化というのは、逆に言うと親のわがままという部分にも捉えられるので、何もかもを受け入れるのではなく、これは家庭でこれは認定こども園でという風に、教諭や保育教諭だけが資質を高めるのではなく、親がしつけをしなくてはいけないというような気持ちにさせるようなこともしていけないといけない。今、どちらかという小学校へ行かせたらそのままみたいなところもありますし、せっかく認定こども園で新しくスタートするわけですから、一歩踏み込んだ行政の支援があればと思います。

## ○事務局

おっしゃるとおり、現場の方でも今まで5歳児がいなかった園については、どのようにしていったらいいのか悩まれているというか、試行錯誤されているところがあります。幼児教育センターの職員が旧日野幼稚園と旧西脇幼稚園の園長であり、精力的に各園の方へ回っていただき、現場で直接先生方と交流をしながら、少しずつではありますが、コミュニケーションをとりながら、今実施しているところです。確かに行政がどこまで入って行けるのかということですが、今のところ認定こども園の方もどんどん来ていただきたいと言われてますので、うまく連携・交流も含めて実施している状況です。3点目のニーズの多様化ですが、確かに要求はいろいろ変わってきています。社会も変わっているところがあって、いろんな働き方があるんだと思います。その中で、確かに家庭教育といった本来は家庭でやっていただかないといけないことの要

求。そこは現場の先生も保護者との会話なりで、対応していただいていると考えています。

◎市長

他に御質問はありますか。また、気が付かれたことがあればあとでお願いします。

◎市長

次に学校における指導について説明をお願いします。

○事務局

私の方で概略的な説明をさせていただいた後、担当の方から説明させていただきます。

————— [ 説 明…記述省略 ] —————

◎市長

この件につきまして何か御質問等がありますか。

新しいマニュアルができたわけですが、このマニュアルがなかったため、これまでできていなかったところを13ページの表で反省とか確認をしていただけますか。

○事務局

これまで教育委員の皆様、市長への連絡について十分な役割分担がありませんでした。また、議会に対しては後日になったり、誰が連絡をするのかということ、少しその場の対応になっていました。それをここにありますように秘書広報課長に伝えたり、教育委員の皆様には教育総務課長から連絡するようになど分担を決め、連絡が同時に少しでも早くいくようにということですので、今まで十分にできていなかった点についてはそのようなどころだと考えています。

○事務局

基本的に被害届を出した段階で、その報告ができておらず、新聞報道があった日に報告をしたというようなことになっていますので、今回このマニュアルを作り、被害届を出した段階で報告をさせていただくという格好にしたいと思っています。

○委員

学校の窓口というのは、対応は誰がされるのですか。

○事務局

学校の場合は学校が体罰など事案ごとにマニュアルをもっており、主には、例えば、窓口は教頭がするとか、報道機関の対応はこうするとか、学校はそれぞれの役割分担をもっていきますので、その辺は大丈夫かと思っています。

○事務局

基本的には管理職の対応ですね。

○事務局

現実的には学校長からの連絡が基本です。

◎市長

ほかに何かございますか。御意見がなければ、このマニュアルを尊重させていただきたいと思います。

◎市長

次に次第の3その他、教育や学術、文化についての意見交換の場とさせていただきたいと思いますが、ここは特に感じられていることとか、御提案とかございますか。

○教育長

御意見をお伺いする立場であり、委員として述べる立場でもあるのですが、最初に市長から言っていたように、予算については、まだ私のところを通過していない部分のものもあります。それをみんな踏まえて、今から整理をしながら市長と詰めていくという作業が残っています。教育委員会としてはこういうものが今大切なんだというPRをさせていただく資料としてこれはぜひ目にしておいていただきたい。短期間でこういうものが達成できることが西脇の教育のレベルアップにつながるんだということ。それと、非常に間口が広いということがわかっていただいたと思います。課題が非常に大きくて、市民の生活・安全、そして、子どもたちのこれからの将来に直結する内容になっていますので、今後、委員の皆様の見解はできるだけ尊重させていただいて、市長と私の方で前向きに検討していくように努めていきたいと思っています。

生活指導の案件並びに教職員の非違行為に類するような行き過ぎた指導ということでは、こういうところにブレーキがかかるような年代の教職員が少なくなってきました。35歳以下ではそういう教員が増えてきているのですが、ゆとり世代という平成の人たちが教員になって中堅教諭になりつつある段階です。マニュアルにしなくても常識的に動けるのが組織だと思うのですが、そういうところを今回きっちり青少年センター所長が随分苦労して作ってくれたと思います。これを基本にして進めていきたいと思っています。

最後の方に出ていました窓口の件ですが、これは、基本的には校長です。校長は最終、学校としての決断、我々との窓口でもあります。それに迅速に同行して動いていくのは教頭であり、生徒指導担当です。ただ、県の方から専門的に充てられているのは西脇の中には生徒指導の教員は2中学校に各1人しかいません。ほかのところは担任を兼務しながら加配でやっています。そのような状況ですから、マニュアルがあっても全部網羅できるわけではありませんので、必然的に教頭ということになります。その3者が一体となって我々との連携を構築していく。もしくは司法機関であるとか警察との対応をします。その時のマニュアルについては、私が見ている限り、今回割合うまく連携が取れるような図式になったという風に思っています。今後、指導教諭も含めまして、司法・立法・行政の機能を凝縮したようなところが教育にもどんどん入ってきているなという感じがいたします。

教育委員の皆様には昨今本当に御協力いただいて、ほぼ毎週一回以上のいろんな意味での御協力をいただいております。現場に目をとおしていただいている回数が増える分、また御意見をたくさんいただいて、それをこの場で生かしていければと思っています。

市長は、今すぐく教育の方に踏み込んでいただいて、子どもたちや現場の方も見ていただいているというのは、今までになかったことですので、ますます現場を見ていただく回数が増えて、こういう対応につながる事案についても、



非常に早く理解を示していただいで動いたということに感謝しています。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

◎市長

兵庫県で初めてクラウドシステムの校務システムを導入しましたが、これにはすぐには効果が出ません。ただ、こんなことを今先生方はされていて、これを導入することによって、これだけ時間短縮できるようになったとか、逆に民間の方も来られますし、こういうものとうまく組み合わせたら、もっと生産性が上がります。生産性が上がるというとあまり行政の人にはぴんとこないといわれます。生産性を上げましょうというのは、最近の政府関係の発表を見ると必ずどこの省でも出てきますので、そういう部分で時間をかけて1枚のA4の文章を作るのであったら、早くできた方がいい。私もまだ見たことはないんですが、教育委員の皆様も見ていただいで、また、その辺のところも御指導いただいで、いろんな御意見をいただければと思います。

それでは、本日協議いただいた内容につきましては、来年度の主要施策で、予算が必要なものは、今後の教育委員会の定例会において報告していただきます。今年度の総合教育会議は、緊急の場合を除いて本日で終了ということになります。また、来年度につきましても、今年度と同様に2回の開催を予定しておりますので、どうぞよろしく願いいたします。それではこれを持ちまして平成29年度の第2回の総合教育会議を閉会いたします。

————— 閉 会 —————